



学校だより

横浜市立大鳥小学校

令和3年 1月7日 発行

1月号

大鳥小

検索

【大鳥小学校Webページ】

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ohtori/>

学校教育目標

〒231-0806 中区本牧町1-251  
学校長 水島 貴志 TEL 621-7700

はばたく子

◆やさしい子

◆たくましい子

◆かしこい子



思いを繋ぐ

校長 水島 貴志

新年あけましておめでとうございます。未曾有の事態が続いた2020年も終わり、2021年（令和3年）、丑（うし）年が始まりました。今年1年が、大鳥小学校に関わる全ての方たちにとって、良き1年となるよう心から願っております。昨年から引き続き、我慢することが多い1年になるかもしれませんが、大鳥小学校の職員一同、丑年の人の「我慢強さ」にあやかって、その時その時にできることを考えながら、一步一步着実に歩みを進めていきたいと思っております。今年もご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

今年のお正月は家にいることが多かったので、いつもよりもじっくり箱根駅伝をテレビで観戦することができました。超スロースタートで始まった1区、驚異的な区間新記録が出た2区、往路優勝を果たした創価大の躍進、その創価大を土壇場の10区で抜いて総合優勝を果たした駒澤大の実力、そして往路の12位から復路で盛り返し、4位入賞を果たした青学大の地力など、見どころ満載の2日間だったと思います。何よりも、コロナ禍で思うように練習できなかつたであろう選手たちの必死の走りを見て、大いに勇気づけられた人も多いのではないのでしょうか。この駅伝と言うスポーツでは、選手一人ひとりが走る距離はフルマラソンよりも短いことが多いかと思いますが、次走者にタスキを渡した（あるいはゴールした）後に倒れこむ選手や、負傷などにより普通ならば走るのをやめて棄権するであろう状態になってもまだ走り続ける選手などが多く見られます。なぜ、選手たちは自分のもてる力以上の力を出そうと頑張るのか。それはきっと、部員全員、いや学校や地域の人たち、さらには過去に関わった卒業生や職員など、すべての人々の思いの詰まったタスキを繋いでいるという意識からではないのでしょうか。 (次頁へ)

(前頁より)

自分一人ではない、過去から現在にわたって関わってきた多くの人たちの思いも一緒に走っていると思うと、頑張らずにはいけない、そして頑張れるのだと思います。(この「過去から現在にわたって思いを繋ぐ」というテーマは、今流行りのアニメ作品にも通じるところがありますね。)

現在、大鳥小学校でも、本校の教育活動に過去から現在にわたって関わってくださっている方々の思いを繋いで、創立100周年記念事業に取り組んでいます。今年度はコロナ禍で思うように進められない部分もありましたが、実行委員会の皆様のご尽力もいただきながら、児童会や盛り上げ隊の取組、BSFや全校遠足などの行事、記念誌の作成などを進めてきました。メインイベントの式典も目前に迫り、地域の放送局「マリンFM」の協力を得て、子どもたちの声での時報やカウントダウン企画を放送していただく予定です。今週中にも首都圏で緊急事態宣言が発令される見通しで、計画通りに諸事業を進めることはできないかもしれませんが、できることをできる範囲で行い、関係する皆様の思いを繋いで、今いる子どもたちの思い出にしっかり残るような取組にしていきたいと思えます。実際に関わっていただくのは難しい方が多いかと思いますが、離れた位置からでもご理解ご協力をいただけると幸いです。そして、令和3年、101年目の大鳥小学校もよろしく願いいたします。

